

5. 教育学部

(1) 教育学部の教育目的と特徴	5-2
(2) 「教育の水準」の分析	5-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	5-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	5-13
【参考】データ分析集 指標一覧	5-15

(1) 教育学部の教育目的と特徴

教育学部は、教育と心理双方にわたる幅広い視野と基礎知識を備え、さらに理論的、実践的な専門知識を習得し、①教育学および心理学の各専門領域における実践家や専門家としての知識やスキル、すなわち現場の諸問題を分析・探究・解決するための能力を備えた人材、②教育学および心理学の各専門領域における研究者への道をめざすための基礎的な知識やスキル、すなわちディスカッション、プレゼンテーション、外国語論文の読解、学術論文の作成等に係る調査・研究を行うための基礎的な能力を備えた人材を養成することを目的としている。

教育学部における教育は、人間の発達と形成を軸とする幅広い総合人間科学としての教育学・心理学に関する理論的並びに実践的な基礎教育と専門教育を通じて、具体的には以下の5つのタイプの人材の育成を想定している。

1. 学部・大学院（本学部・本学大学院人間環境学府等）の一貫教育を経て、国内外の高等教育機関・研究機関等で教育・研究にたずさわる専門研究者。
2. 学部さらには大学院での教育を経て、各種の教育機関・福祉機関等において教育・福祉の実践的活動にたずさわる専門職や指導者。
3. 官公庁及び民間企業等で実践的な人材開発や能力開発、また教育分野や心理分野での実践活動にたずさわる専門研究者。
4. 地域社会、さらには国際社会において、ボランティア活動としての教育的活動や福祉的活動にたずさわる専門家や指導者。
5. 心理カウンセラーとして心理相談や心理ケア等の専門的活動にたずさわる専門家や指導者ならびにボランティア活動家。

本学部の教育課程は、基幹教育から専攻教育へと幅広い知識・学問から教育学や心理学の特定領域へと焦点化させていくとともに、初年度の段階から教育学、心理学の基礎を学び、学年進行と共にその専門性を深めていくことを目指している。

専攻教育に進学後は、本学部の長所である少人数教育の利点を生かしながら、人間の発達と形成を軸とした総合的な人間科学を目指し、専門領域の学問の習得と共に、教育学と心理学の二つの領域を総合的に学びつつ、それらの融合を図っている。

専攻科目はそれぞれの系やコースに沿って構成し、シラバス等において内容、評価基準等を明示している。また、専攻教育段階では理論的な学習のみならず、調査研究の方法やスキルを演習、フィールドワーク、実験・実習などで、社会との連携を保ちつつ、学生が主体的かつ実践的に学べるよう配慮している。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針
(別添資料 7305-i1-1_教育学部ディプロマポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針
(別添資料 7305-i2-1_教育学部カリキュラムポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
(別添資料 7305-i3-1_教育学部規則)
(別添資料 7305-i3-2_教育学部カリキュラムマップ)
(別添資料 7305-i3-3_教育学部ナンバリングコード)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
(別添資料 7305-i3-4_教育学部評価委員会内規)
(別添資料 7305-i3-5_教育学部教務委員会内規)
- ・ 研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む)指導体制が確認できる資料
(別添資料 7305-i3-6_教育学部細則)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育学部は人間の発達と形成を軸とした総合的な人間科学を目指し、その基本を作っているのは教育学と心理学である。この2つの領域を総合的に学びつつ学年進行にともない、その専門性を深めていく方法をとっている。大きく教育学系と教育心理学系にわかれ、さらに教育学系には国際教育文化コースと教育社会計画コース、教育心理学系には人間行動コースと心理臨床コースの4つのコースを置いている。

また、平成31（令和元）年度より「教育学部国際コース」を設け、国際的に活躍できるような人材、とりわけ今日のアジア地域での社会や文化の多様性を理解し、多面的・越境的な視点からグローバル化時代の複雑な問題の解決に挑むような人材の育成にあたっている。

さらに、心理職の国家資格である公認心理師試験の受験資格の要件ともなる公認心理師カリキュラムを文学部心理学分野と連携して整備し、平成30年度より開講した。大学院（大学院人間環境学府専門職学位課程実践臨床心理学専攻）についても同様であり、これにより学部—大学院の6年間一貫した高度に体系化された心理学教育が可能となっている。[3.1]

（別添資料 7305-i3-7_公認心理師科目確認申請書）

（別添資料 7305-i3-8_教育学部学生便覧（令和元年度）pp. 42～45）

- 文系4学部による「文系4学部副専攻プログラム」を平成30年度より開講している。この副専攻プログラムでは、横断型プログラムにおいては、教育学部の専門教育（主専攻）を学びつつ、さらに「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」といった現代社会を解き明かす重要なテーマを軸に広く学ぶ機会を提供している。一方、専門領域型プログラムでは、教育学部に籍を置いたまま文学部、経済学部、法学部が提供する専門領域を体系的に深く学ぶ機会を提供している。[3.2]

（別添資料 7305-i3-9_文系4学部副専攻プログラムパンフレット）

- 総合大学としての多様性を背景に、特定の学部を指定せず学際的な学びを展開する総合科目を開いている。[3.3]

（別添資料 7305-i3-10_基幹教育履修要項（pp. 146-160））

（別添資料 7305-i3-11_基幹教育科目授業時間割（前期、後期））

（別添資料 7305-i3-12_シラバス（教育テスト論））

- 専門教育で培った知を分野横断的に広げる高年次基幹教育科目として「教育学特論」を開いている。[3.0]

（（再掲）別添資料 7305-i3-10_基幹教育履修要項（p. 168））

（別添資料 7305-i3-13_シラバス（教育学特論））

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 7305-i4-1_2019 教育学部行事予表)
(別添資料 7305-i4-2_教育学部授業日程)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 7305-i4-3_シラバス_教育学部)
(別添資料 7305-i4-4_シラバス_基幹教育科目)
((再掲) 別添資料 7305-i3-8_教育学部学生便覧 (令和元年度))
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 7305-i4-5_協定等に基づく留学期間別日本人留学生数_教育学部)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 7305-i4-6_大学等におけるインターンシップに関する調査_H29 九州大学)
- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行う PBL 科目である課題協学科目を全学必修科目として開いている。
また、専攻教育科目では、教育学と心理学の両方を学べるようにし、フィールドワークや実験や討論など体験重視型の授業も含むという工夫を行っている。
[4.1]
((再掲) 別添資料 7305-i3-10_基幹教育履修要項 (pp. 100-101))
(別添資料 7305-i4-7_課題協学科目シラバス)
- 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取り組みとして教職課程の学校インターンシップの他に、教育学インターンシップ演習を開講し、行政機関や企業等にて実践的活動を経験させている。また、教育学ボランティア演習を開講し、学校現場における実践的なボランティア活動を経験させている。[4.2]
(別添資料 7305-i4-8_シラバス (教育学インターンシップ演習・教育学ボランティア演習))
- 学内の学習支援システム Moodle を利用して担当科目を履修する学生の出欠確認、課題作成依頼・登録、及び資料配布等を行なっている。さらに教育情報システムに関連する科目を開講し、ICT 技術を活用した教育方法の開発を実践的に学

九州大学教育学部 教育活動の状況

ぶようにしている。[4.3] (別添資料 7305-i4-9_シラバス (教育情報工学))

- 教育学系及び教育心理学系において定期的に教員会議を開催して情報の共有と連携体制の構築を図っている。また、学部3年後期より専攻する科目の担当教員に直接指導を受け、卒業研究に取り組みさせるなど、指導体制を確立している。[4.4]

((再掲) 別添資料 7305-i3-6_教育学部細則 (第9条))

((再掲) 別添資料 7305-i3-8_教育学部学生便覧 (令和元年度) (pp. 7~11))

- 卒業研究の論文作成に関して、主指導教員のほかに副指導教員1名を配置するなど、2名の教員からバランスのとれた指導を受けられるようにしている。[4.5]

((再掲) 別添資料 7305-i3-6_教育学部細則 (第9条))

((再掲) 別添資料 7305-i3-8_教育学部学生便覧 (令和元年度) (pp. 7~11))

((別添資料 7305-i4-10_令和元年度 卒業論文の主査・副査について))

- 理論と実務の架橋を語る教育方法の工夫として、教育実践学演習、教育学インターンシップ演習、教育学ボランティア演習、教育学フィールドワーク演習等の科目において、学校や自治体、企業など、様々な教育の現場を実際に体験しながら課題を見出し、その解決に教育学の理論や研究方法の応用が可能となるようにしている。[4.6]

(別添資料 7305-i4-11_シラバス (教育学フィールドワークⅡ演習))

- 学習指導における学習成果を可視化するために、分析的ルーブリックを活用した成績評価を行い、教員及び学生が学習到達度を多面的に認識できるようにしている。[4.7]

(別添資料 7305-i4-12_ルーブリック医療心理学)

- 基幹教育院附属次世代型大学教育開発センターは、FD 開催等により新たな科目・教育手法を開発・啓蒙している。[4.0]

(別添資料 7305-i4-13_九州大学次世代型大学教育開発拠点平成30年度活動報告書)

(別添資料 7305-i4-14_次世代型大学教育開発センターHP)

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7305-i5-1_履修指導の実施状況_教育学部)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7305-i5-2_学習相談の実施状況_教育学部)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料

九州大学教育学部 教育活動の状況

(別添資料 7305-i5-3_社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組_教育学部)

- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 7305-i5-4_履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援_教育学部 (全学の取組))

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習支援は、専攻科目決定前の1・2年生については学年担任の教員2名を中心に全教員で取り組み、系及び専攻科目が決定する3年生以降は、指導教員が中心になって取り組んでいる。また、特に学習支援が必要な留学生については、留学課と協力し、教員の支援に加えて、チューターの学生（主に語学に優れた学部生）を配置して、科目の履修登録や学習方法について助言するなど、円滑な学習活動を支援する体制をとっている。学習支援に関する学生のニーズの把握については学生と教員の懇談会（年1回開催）等を通じて、学生の進路希望に応じた科目履修を勧めるなど、きめ細かい取組を行っている。[5.1]

((再掲) 別添資料 7305-i3-8_教育学部学生便覧 (令和元年度))

- 指導教育体制が切り替わる適切な時期に、進級生オリエンテーションを通じて、履修指導やコース説明を行っている。特に、学生主催オリエンテーション『EduBox』は、上級生が15人程度で構成する自主運営集団で、教員2名とも連携をとりながら、学生目線のきめ細やかな情報からなる「専攻教育科目」の履修のためのガイダンスを4月と12月に1年生を対象に、また4月には専門課程に進級してきた2年生を対象に行っており、学生のピア・サポートの仕組みとして効果的に機能している。[5.0]

(別添資料 7305-i5-5_進級者オリエンテーション次第)

(別添資料 7305-i5-6_『EduBox 開催案内』の実施概要 (企画書))

- 振り返りや将来の目標設定を通してキャリアに目を向けさせる初年次必修科目基幹教育セミナーを開いている。専攻教育科目においても、キャリアガイダンスセミナーを開催し、学生自らのキャリアデザインを行う面から、主体的な学習を促進している。[5.3]

((再掲) 別添資料 7305-i3-10_基幹教育履修要項 (pp. 98-99))

(別添資料 7305-i5-7_基幹教育セミナーシラバス)

九州大学教育学部 教育活動の状況

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準
((再掲) 別添資料 7305-i4-3_シラバス_教育学部)
((再掲) 別添資料 7305-i4-4_シラバス_基幹教育科目)
- ・ 成績評価の分布表
(別添資料 7305-i6-1_成績評価の分布表_教育学部 (2019年度))
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料
(別添資料 7305-i6-2_成績評価に関する申立てについて)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 基幹教育及び専攻教育では成績評価はルーブリックに基づくものとし、シラバスで評価方法(含ルーブリック)を公開している。[6.1]
((再掲) 別添資料 7305-i5-7_基幹教育セミナーシラバス)
(別添資料 7305-i6-3_基幹教育セミナールーブリック)
(別添資料 7305-i6-4_シラバス (パーソナリティ心理学講義Ⅰ (健康・医療心理学)))

<必須記載項目7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定
(別添資料 7305-i7-1_九州大学学位規則)
((再掲) 別添資料 7305-i3-1_教育学部規則)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料
(別添資料 7305-i7-2_教育学部教授会運営内規)
((再掲) 別添資料 7305-i3-6_教育学部細則)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業論文は、教授会の議を経て、学部長が指定した教員が考査する。[7.2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料
(別添資料 7305-i8-1_アドミッションポリシー)
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率 (文部科学省公表)
(別添資料 7305-i8-2_入学者選抜確定志願状況_05 教育学部)
- ・ 入学定員充足率
(別添資料 7305-i8-3_入学定員充足率_教育学部)
- ・ 指標番号 1～3、6～7 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- アドミッションポリシーに沿って、多様な入学者選抜方法を実施している。すなわち、人間の教育や成長について多角的な観点や異文化や国際的見地に立って議論し考察するための基礎学力と実践的技能を持ち、かつ学問的観点から科学的に考えることに興味と意欲を持つ学生を選抜するというアドミッションポリシーを踏まえ、A0 入試や国際入試等の方法 (調査書等や筆記試験による基礎学力の評価の後に課題を設定した面接試験を実施する) を採用している。いずれの入試方法についても、一定の受験者を集め、多様な視野を持った学生の獲得に繋がっている。[8.1]
(別添資料 7305-i8-4_学生募集要項 教育学部 (A0 入試 I、国際入試))
- 定員充足率は、一般入試、A0 入試、及び国際入試による定員数の内訳を調整することにより、平成 28 年度から平成 31 年度まで平均 107%程度であり、「小規模学部基準定員超過率 (120%以内)」の基準を満たし、適切な割合を維持している。[8.2]

＜選択記載項目 A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
((再掲) 別添資料 7305-i4-5_協定等に基づく留学期間別日本人留学生数_教育学部)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 正課の授業外での自主的な英語学習のサポートを目的として、基幹教育院が設置した SALC (Self-Access Learning Center) を本学部生が利用できるようにしている。

これまで以上に外国人留学生の入学を促進するために、平成 31 年度より従来の私費外国人留学生入試、及び帰国子女入試を併合して、外国人の受験資格を広げた国際入試を実施し、さらに外国人留学生に門戸を開いた。

国際的高大連携を図り、海外の高校生や大学生との国際的な交流と学習の場を提供するために、平成 30 年 3 月、国際教育文化コース特講 I として、上海及び南京にて海外リサーチトライアルを開講し、教育学、心理学の講義を行った。また、台湾フィールドワークとして、台湾師範大学、国立台湾歴史博物館等にて海外フィールドワークを実施している。また、国際コースの開設に伴い、海外インターンシップ、海外ボランティア演習、海外フィールドワークの科目を新設し、華東師範大学や上海の信男学園文来高校との教育研究の交流協定をはじめ、やモンゴル日本人材開発センターと海外就業体験に関わる協定を締結した。[A. 1]

(別添資料 7305-iA-1_平成 30 年度 SALC 利用状況報告書)

(別添資料 7305-iA-2_シラバス (国際教育文化コース特講 I))

(別添資料 7305-iA-3_NEEP 上海南京報告)

(別添資料 7305-iA-4_台湾フィールドワーク 2019 報告書)

(別添資料 7305-iA-5_各種交流協定書)

<選択記載項目B 地域・教育委員会・附属学校との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 九州大学教育学部と糸島市教育委員会は、平成21年以来、教育全般における双方が有する教育的資源を有効活用し、学校・社会教育等の振興と教育研究活動等を連携させ、教育する力を高めることにより人間性豊かな地域社会を創造することを目的として、学校や公民館等での現場体験を通し、課題の掘り起こしと支援を進めている。具体的には、同市の教育の情報化連携事業や子どもの支援連携事業や、糸島市の教員が実施している教育のブランド化をめざした、汎用的な学力を育てるためのカリキュラム・デザインを研究する「糸島力」研究会等に対し、学部教員が参加し指導的研究協力を行っている。[B.1]

(別添資料 7305-iB-1_九州大学教育学部と糸島市教育委員会との連携協力に関する覚書)

(別添資料 7305-iB-2_糸島市教育委員会九州大学教育学部連携事業令和元年度実績報告)

(別添資料 7305-iB-3_糸島市教育委員会・九州大学教育学部連携)

(別添資料 7305-iB-4_九州大学教育学部・糸島市教育委員会連携事業：教育学フィールドワーク演習：報告書)

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- FD 実行委員会を中心に授業評価アンケートを各学期において行っており、この結果を授業改善、カリキュラム改善のためのデータとして活用している。なお、集計結果をもとに都度教授会メンバーにより FD を行っており、教育学や教育心理学の視点を踏まえて、大学における講義、演習の意義について意見を交換し、次学期の授業方法や講義内容を修正することにより、改善に役立てている。[C.1]

(別添資料 7305-iC-1_授業評価アンケート)

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所
(別添資料 7305-iD-1_九州大学教育学部_社会との連携)
- ・ 指標番号 2、4 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学校管理職短期マネジメント研修(毎年夏に実施)、福岡県教育センターとの連携(毎年3月に協議会を開催)等を通して、学校管理職や教育センター指導主事を対象に教員の資質向上をはかるための研修等の諸事業を行なっている。[D.1]
(別添資料 7305-iD-2_九州大学教育学部-福岡県教育センター連携協議会要綱)
(別添資料 7305-iD-3_九州大学学校管理職マネジメント研修資料)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率
(別添資料 7305-ii1-1_標準修業年限内卒業（修了）率_教育学部)
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率
(別添資料 7305-ii1-2_標準修業年限1.5年内卒業（修了）率_教育学部)
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7305-ii1-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 過去4年間の卒業生に対する標準修業年限内の卒業率は概ね90%程度を示しており、さらに海外留学による積極的卒業延期の事例なども勘案すれば、学業成果の十分な達成が見られる。[1.1]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部から大学院への進学率は直近の4年間の平均で30%を超えており、引き続き高い進学率が維持されていた。また、同様4年間の就職内定率は例年90%前後であり、20%程度の卒業生が公務員として就職するなど、これまで高い就職率を維持している。[2.1]
(別添資料 7305-ii2-1_卒業生進路状況)

九州大学教育学部 教育成果の状況

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料

（別添資料 7305-iiB-1_平成 31 年度教育学部案内「卒業生からの言葉」）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育学部同窓会と連携して、同窓会総会（毎年 12 月に実施）に教員も参加して、卒業生から意見を聴取している。それらの意見は教授会にて報告し、学部内で評価情報を共有するようにしている。[B. 1]

（（再掲）別添資料 7305-iiB-1_平成 31 年度教育学部案内「卒業生からの言葉」）

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7305-iiC-1_九州大学教育学部ステークホルダー調査結果報告）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 学校管理職短期マネジメント研修（毎年夏に実施）、福岡県教育センターとの連携（毎年 3 月に協議会を開催）等の機会を得て、学外関係者からの意見を聴取し、本学部の教員によって構成される社会連携委員会等が中心となって学外関係者から聴取した意見を学部内で評価情報として共有するようにしている。[C. 1]

（別添資料 7305-iiC-2_九州大学教育学部・福岡県教育センター連携事業）

（別添資料 7305-iiC-3_R1 福岡県教育センター連絡協議会資料）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。